



避難のポイント



避難の心得

避難は自ら判断を

災害が迫ったとき、置かれた状況は一人ひとり違います。自ら考え、「自分の命は自分で守る」という意識を持って行動しましょう。

具体的には

- 土砂災害の危険がある地域に住んでいる。
- 河川の氾濫により、浸水の危険がある地域に住んでいる。
- 子どもや高齢者など家族に要配慮者がいる。

気象情報や市の避難情報に注意し、早めの避難を心がけてください。



命を守る最低限の行動を

危険な状況の中での避難は出来るだけ避け、安全の確保を第一に考えます。危険が切迫している場合は、命を守る最低限の行動が必要な場合があります。

具体的には

- 夜間や急激な降雨で避難経路上の危険箇所がわかりにくい。
- ひざ上まで浸水している。(50cm以上)
- 浸水は20cm程度だが、水の流れる速度が速い。
- 浸水は10cm程度だが、用水路などの位置が不明で転落のおそれがある。

屋外での移動は危険です。自宅や近隣建物の2階以上へ(土砂災害の場合は、斜面から離れた部屋など)緊急的に一時避難し、救助を待つことも検討してください。



避難時の心得

スマートフォンに市公式SNS(LINE・X・Facebook)、市防災マップ(Web版)を登録しよう!

1

非常時持ち出し品は最小限に!

非常時持ち出し品はリュックサックにまとめ、身軽に行動できるよう持ち出し品は最小限にしましょう。



5

家族の住所、氏名、連絡先などを記載した防災メモを持とう!

特に高齢者や子どもは、事前にメモを用意し、身に付けて避難しましょう。



2

外出中の家族には連絡メモを残そう!

外出中の家族に「〇〇〇へ避難する」といった連絡メモを残しておくといいでしょう。



6

避難所に避難するときは

水や食料、常備薬、防寒対策グッズなどのほか、感染症対策に体温計やアルコール消毒液などを持っていきましょう。



3

避難先を伝える!

親戚や知人などに避難することを連絡しておきましょう。



7

徒歩での避難を!

車での避難は緊急車両の通行の妨げになり、交通渋滞を招きます。車中泊避難などの場合を除き、徒歩で避難しましょう。



4

浸水した道路を通る場合

水路には十分注意して、できるだけ高いところにある道路を選びましょう。



8

一人暮らしの高齢者などには心配りを

近所の一人暮らしの高齢者や病気の方がいる場合は、声を掛け合って一緒に避難しましょう。

